

研究論文

メール返信時の日本語学習者の自分の意志を伝える表現 - 婉曲表現の有無に焦点を当てて -

How Japanese Learners Convey Their Intention When Replying to E-mail -Focusing on Softening Expressions-

金蘭美・横浜国立大学／金庭久美子・立教大学

キーワード：「V（よ）うと思う」、意向形、メール文、婉曲表現、読み手配慮

外国語キーワード：“V-yoo-to-omou”, Volitional Forms, Email, Language Softening Expressions, Consideration for the Reader

要旨

本研究では、メールタスクにおける「V ようと思う」の使用状況について、日本語学習者（韓国・中国・ドイツ）と日本語母語話者の各 30 名を対象に調べたものである。このメールタスクは花見の持ち寄りパーティーに何か持ってきてほしいという相手の依頼に対し返信するというものであるが、日本語母語話者は「～を持っていこうと思います」や「～を持っていきます・いけそうです」を使用し、婉曲的に自分の意志を述べていた。しかし、日本語学習者は「～を持っていきます・いけそうです」の使用は見られたものの、「～を持っていこうと思います」の使用が全く見られなかった。特に、韓国学習者の場合、「～を持っていきます」のような言い切りの使用が日本人やほかの学習者に比べ多かった。表現の選択は学習者の自由であるが、その場にふさわしい読み手配慮の表現があることを知る必要があると思われる。この結果から、「V ようと思う」の使用場面について再考し、指導内容や時期などを検討する必要があると考える。

英文要旨

This study investigates the use of "V-yooto omou" in an email task for 30 Japanese learners (Korean, Chinese, German) and 30 native Japanese speakers. This email task asks participants to reply to someone's request to bring something to a potluck party. Japanese native speakers used “~o motteikooto omoimasu” or “~o motteikemasu/ikesoodesu” in this email. However, Japanese learners did not use “~o motteikooto omoimasu”. In particular, Korean learners used the phrase “~o motteikimasu” more often than Japanese and other learners. The choice of expression is up to the learner, but it may be necessary to know that there are softening expressions appropriate for these kinds of situations. From the results of this investigation, we think that it is necessary to consider the various usages of "V-yooto-omou" and also consider how and when to teach it.

1. はじめに

本研究では「話し手自身の行為について意志を表す」（高梨 2017：45）表現について分析を行う。例えば、「明日は試験なので、今晚勉強しようと思います」の下線部のような表現に注目する。自分の意志を伝える表現には、「Vます」「Vたい」「V（よ）うと思う／思っている」「Vつもりだ」のようにいくつかの表現がある。「明日パーティーに行きます」のような言い切りの形の「Vます」は、確定した予定を述べる際に用いられる。それに対し、「Vたい」「V（よ）うと思う／思っている」「Vつもりだ」は、予定がまだ確実ではない際に用いられる。これらは、初級の段階で指導され、高梨（2017：55）でも触れられているように中級の教科書で文法項目として扱われることはない。本研究では、上記のような「自分の意志を伝える表現」に注目し、中上級の学習者がどのようにこれらの表現を使用しているのかを明らかにしたい。

本研究では、日本語母語話者と日本語学習者に対し、持ち寄りパーティーに持っていくものを連絡するというメールタスクを与えた。このタスクでは、持ち寄りパーティーのための持参品を述べる際に自分の意志を伝える表現を用いるが、両者がどのような表現を使っていたのかを比較し、その違いを明らかにする。また、その結果から、メール文における自分の意志を伝える表現の指導方法について考えてみたい。

2. 先行研究と本研究の目的

2-1. 日本語教科書における「V（よ）うと思う」の扱い

「V（よ）うと思う」は初級の指導項目として扱われる。日本語教科書の『げんきⅡ』では、第15課で自分の計画を話すときや予定について問われたときの答えを言うときに自分の意志を示すための表現として「V（よ）うと思っている」が提示されている。(1)は『げんきⅡ』で示された例文である。また、『みんなの日本語』では第31課で「V（よ）うと思っている」、「Vつもりだ」とともに提示され、話し手が抱いている意志や計画を聞き手に伝えるときに用いる表現として提示されている。(2)は『みんなの日本語』で示された例文である。両者の違いについては、「V（よ）うと思っている」に比べ「Vつもりだ」の方が、話し手の自分の意志への確信度が高いが、ほとんど同じ意味合いで使われているとしている。

(1) Q：両親から一万円もらったんですか。何に使うんですか。

A：漢字の辞書を買おうと思っています。(『げんきⅡ』第15課 p.79)

(2) お正月なにをしますか。

…家族と温泉に行こうと思っています。(『みんなの日本語』第31課 p.44)

2-2. 日本語指導書における「V(よ)うと思う」の扱い

「V(よ)うと思う」の用法について、友松他(2007:398)は「V(よ)うと思う」は「これから、または、将来何かをするという話す人の意志を表す」表現であるとしている。(3)は友松他に挙げられていた例文である。また、松岡他(2000:136-137)によれば、意志を表す表現として、「意向形」、「つもりだ」、「ことにする」があり、自分がある行為をする意志があることを聞き手に伝える場合には「V(よ)うと思う」を付けて用いるとしている。動詞のル形(「Vます」)でも意志を表すことができるが、「意向形+と思う」を使った場合に比べ、既に決めてしまったことで変更がきかないといった強い調子になるということである。(4)は松岡他(2000)に挙げられていた例文である。国際交流基金(2012)は、意志表現の違いについて、例えば「帰るつもりだ」に比べ、「帰ろうと思います」は、「帰ろう」という意志を「と思う/思っている」という語でやわらげ、かつ、相手に伝えるとしている。(5)は国際交流基金(2012)に挙げられていた例文である。

(3) 会社をやめて、1年ぐらい留学しようと思っています。(友松他 2007:398 より)

(4) 今夜は早く寝ようと思っています/思います。(松岡他 2000:136 より)

(5) A: 正月休みはどこかへ行きますか。

B: ええ、国へ帰ろうと思います/思っています。(国際交流基金 2012 より)

(1) から (5) の例文は、いずれも「将来何かをする」という予定を表すために示された意志表現である。

また、日本語教育における意志表現の扱いについて検討しているものとして高梨(2017)がある。高梨は主な意志表現として、動詞の意向形を用いた「しよう/しようと思う」、「しようか」、動詞の基本形「する」、「するつもりだ」、「したい/したいと思う」を取り上げ、その特徴を整理し、これらの表現の使い分けのポイントとして以下のポイント①からポイント④の4つを挙げている。

【ポイント①】意志の伝達(対話)か表出(独話)か

A) 伝達: ・[聞き手に] もう帰ります/帰ろうと思います/帰ろうと思っています/帰るつもりです。

B) 表出: ・[独り言] もう帰ろう

【ポイント②】意志が決定済みか未決定か

A) 決定済み: ・[聞き手に] もう帰ろうと思います。・[独り言] もう帰ろう。

B) 未決定: ・[聞き手に] もう帰ろうかと思っています。・[独り言] もう帰ろうか。

【ポイント③】意志がその場で決定したのか事前に決定済みだったのか

A) その場で：・A：もう帰っていいですよ。B：そうですか。では、帰ります。
・[独り言で] もう6時か。そろそろ帰ろう。

B) 事前に：・もう帰ろうと思います／帰ろうと思っています／帰るつもりです／帰ります。

【ポイント④】話し手の意志のみで実現可能か不可能か

A) 実現可能なこととして表す

- ・1時から打ち合わせをしようと思います。
- ・大学院に入ろうと思っています／入るつもりです。

B) 実現不可能なこととして表す

- ・1時から打ち合わせをしたいと思います。
- ・大学院に入りたいと思っています。

さらに、主な日本語教科書での意志表現がどのように扱われているのかを調べ、これらのポイントが従来の日本語教育では十分指導されていないことを指摘している。

2-3 本研究の目的

以上のように指導書では「V(よ)うと思う」と他の表現との違いについて述べられているが、現状ではどのような場面で「V(よ)うと思う」が使われているのだろうか。本研究ではメールの返信時に用いられた意志表現についてみることにする。そこから、日本語母語話者と日本語学習者が意志を述べる際にどのような表現を用いて、どのように伝えているのかを明らかにし、自分の意志を伝える表現の用法について考察することを目的とする。

3. 調査

3-1. 調査方法

本研究の対象者は、韓国語母語話者・中国語母語話者・ドイツ語母語話者（以下、日本語学習者）各30名と日本語母語話者30名の計120名である¹。これらの対象者に対し、資料1のようなメール文の作成タスクを与え、返信メールを書いてもらった。日本語母語話者には日本語で、学習者にはそれぞれの母語で書かれたタスクを与えた。本研究の対象者は、資料1のメール文を読んで理解し返信できる中上級レベルの学習者である。

¹ 日本語学習者については、①日本国内外で学習者数が多い（韓国語・中国語）、②日本語と文法体系が異なる（中国語・ドイツ語）、③アジア圏（韓国語・日本語）と非アジア圏（ドイツ語）を考慮し、調査協力を求めている。

資料1 本研究で扱ったメールタスク

タスク:「花見の持参品の友人への連絡」

あなたは留学生交流サークルの橋本君から花見の日程のメールをもらいました。
持っていくものの返事をしてください。

=====

〇〇さん

こんにちは。留学生交流サークルの橋本です。

先日、メールで連絡をしたお花見の件ですが、日程が決まりましたのでお知らせします。

日時：4月10日（金）夕方5時から

場所：大学 中央広場

持ち寄りパーティーです。〇〇さんも何かお願いできますか？以下の中から、何が持ってこられそうですか？

1. ジュース2本
2. バナナ5本
3. いちご1パック
4. サラダ2人分

それから、準備を手伝ってくれる人を募集しています。

〇〇さんは、どうですか？ お返事お待ちしております。

メールを書く際には、時間、文字数、辞書の使用について特に制限は設けていない。また、データ収集に際しては、両者ともに通常のメールソフトを用い、メールタスクにある留学生交流サークルの橋本さんに実際にメールを送るつもりで、メール文を書いてもらい、指定のアドレスに送ってもらった。

このタスクに答えるためには、持ち寄りパーティーに持っていくものを、留学生交流サークルの橋本さんに伝える必要があり、その際に自分の意志を伝える表現が使われることが予想される。そこで、まず、日本語母語話者の持ち寄り品を伝える際に使用している文を抽出し（資料2-1の網掛けの部分）、同様の箇所で、日本語学習者がどのような表現を使用しているかを調べ（資料2-2）、パターン別に分類を行った。

資料2 日本語母語話者と日本語学習者の返信メールの例

(資料 2-1)

橋本さん

連絡ありがとうございます。

1 のバナナ 2 本を持っていこうと思います。

準備も手伝えるので、詳しい時間などをまたご連絡ください。

よろしくお祈いします。(日_01)

(資料 2-2)

橋本さん

こんにちは。メールありがとうございます

ちょうど家にいちごがあるので私はいちご 1 パック、持っていきます。

それと、すみませんが準備を手伝うのはちょっとだめみたいです。

この頃、試験で無理に勉強したせいか体が疲れたみたいで…。

でも、できるだけ手伝うから必要だったら呼んでくださいね。

花見、期待しています。(韓_01)

3-2. 調査結果

3-3-1 意志を伝える表現のパターンとその使用数

まず、自分の意志を伝える箇所に使用されていた表現を6つのパターンに分類した。その6つとは、①可能形／可能形+そうだ、②V(よ)うと思う、③言い切り、④たいと思う、⑤許可求め、⑥その他、である。

次に、日本語母語話者と日本語学習者の使用数を調べた。表1は、「持ち寄りの品」について述べる表現と両者の使用数を比較したものである。①～⑥の各パターンに使用された表現の例を添えた。

次頁の表1を見ると、日本語母語話者には①と②の使用が8割以上を占めており、本タスクのような依頼に対し、自分の意志を伝える際には、例(6)(7)のように「可能形」か「可能形+そうだ」、または例(8)のような「V(よ)うと思う」を用いるのが日本語母語話者の典型であると考えられる。

(6) 私はジュースを2本持ってこられます。(日 01_①)²

(7) 私はジュースを2本持って行けそうです。(日 14_①)

(8) 1のジュース二本を持って行こうと思います。(日 07_②)

² () には、調査対象者の母語と番号、表1のパターンの番号を示した。

表1 「持ち寄りの品」について述べる表現と両者の使用数の比較

パターン	使用された表現の例	日 (%)	韓 (%)	中 (%)	独 (%)
①可能形／ 可能形+そうだ	持っていけ（こられ）ます、持っ ていけ（こられ）そうです	16 (53%)	5 (17%)	10 (33%)	10 (33%)
②V（よ）うと 思う	持っていこうと思います	9 (30%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
③言い切り	持っていきます	3 (10%)	17 (57%)	9 (30%)	8 (27%)
④たいと思う	持っていきたいと思います	1 (3%)	1 (3%)	1 (3%)	1 (3%)
⑤許可求め	持って行ってもよろしいでしょ うか	0 (0%)	3 (10%)	3 (10%)	4 (13%)
⑥その他	㉞持って来たいです ㉟…私はバナナ5本といちご1パッ クがいいとおもいます ㊱…パーティーに持っていく物に はいちご1パックにします ㊲私はジュース2本とバナナ5本だ けを用意できるようです ㊳こちらがお持ちしましょう ㊴持っていくつもりです ㊵持って来たいです、など ³	1 (3%)	4 (13%)	4 (13%)	4 (13%)
合計		30	30	30	30

それに対して、日本語学習者の場合は、日本語母語話者ほどではないが①「可能形」・「可能形+そうだ」のパターンが多く、その次に例（9）～（11）に示したような③「言い切り」の使用が多かった⁴。特に、韓国語母語話者は、半数以上の17名の者から（9）のような言い切りの使用が見られており、それは、日本語母語話者（3名）の4倍、中国語母語話者（9名）やドイツ語母語話者（8名）のほぼ2倍であった。しかし、②の「V（よ）うと思う」の使用は0名であり、いずれの日本語学習者にもまったく見られなかった。

（9）私はサラダ2人分を持って行きます。（韓08_④）

³ ㉞～㊵は、日本語学習者の例である。そのほかに、「…ジュースとサラダは、こちらからお持ちしましょう。」や「それでお花見のパーティーに果物を持って来よう」、「私をもっていきたいものは2番のバナナ5本です」など、多様な表現が見られた。

⁴ ①「可能形」・「可能形+そうだ」については、「資料1 本研究で扱ったメールタスク」内に書かれている表現の「何か持ってこられそうですか」の影響を受けている可能性がある。

(10) ジュース2本、バナナ5本、いちご1パックを持って行きます。(中 13_④)

(11) 私はジュース2本とイチゴ1パックを持って行きます。(独 06_④)

4. 考察

調査の結果から、日本語学習者と日本語母語話者は、持ち寄りの品に何を持っていくかを伝える際、自分の意志を伝える表現を使った述べ方に違いがあることが明らかになった。

4-1. 日本語母語話者の意志を伝える表現における特徴

持ち寄りパーティーに持っていくものを伝える際に、「～を持っていきます」のように③「言い切り」のパターンを使用しても、別に誤用になるわけでも、相手に不快感を与えるわけでもないが、日本語母語話者にはあまり言い切りの表現が見られなかった。これは言いきりの形を用いないことで、強い意志を示さないようにして、相手に判断を委ねる、または変更があればそれに応じるつもりで送信しているのではないかと考えられる。日本語母語話者に多く見られていたのは①「可能形／可能形＋そうだ」や②「V(よ)うと思う」であった。日本語母語話者がこれらの表現を好む理由は、自分の意志を伝える際に直接的な表現を避けることで、すでに自分で決めたことであっても、最終的な判断を相手に委ね、読み手に配慮することが可能になるからであろう。このことから、①「可能形／可能形＋そうだ」や②「V(よ)うと思う」には、明言を避けた婉曲表現としての要素が含まれていると考えられる。

高梨(2017:49-50)で述べられているように、「動詞の基本形「する」」は、「話し手が行為の実行を一方的に宣言する」という「意志の伝達」の機能がある。今回の日本語母語話者が③「言い切り」を用いなかった理由は、「一方的に宣言する」ことを避けたためであると考えられる。また、日本語母語話者が③「言い切り」を用いないもう一つの理由としてメールの送り主との関係性が影響していることも考えられる。本研究で用いたタスクはタスクの指示文に相手との関係に関する情報は最小限にしており、調査対象者である日本語学習者はタスクのメール文から、送り主と(読み手)の関係を自分なりに判断し、返信を書くことが求められる。メールの送り主である橋本君のメールは「です・ます体」で書かれており、それほど親しい間柄ではないことが読み取れる。もし、橋本君が仲のいい友だちの場合は、すでに決めたことなので以下の例(12)のように言い切りで伝えてもまったく問題ないと思われる⁵。

⁵ 例(12)は、高梨(2017)の4つのポイントから考えると、意志との伝達(ポイント1)であり、決定済みの(ポイント2)事前に決めた(ポイント3)実現可能な(ポイント4)意志となるため、動詞基本形「する」を用いることが可能であり、これは

(12) じゃ、イチゴ1パックを持ってく。(作例)

このように、日本語母語話者は、無意識に読み手との関係を判断し、すでに決定済みでの意志であるにもかかわらず言い切りを避けることで読み手に配慮する形で自分の意志を伝えているのではないかと考えられる。

4-2. 日本語学習者の意志を伝える表現における特徴

まず、日本語学習者に共通して言えることは日本語母語話者に比べ、パターン①、②の使用が少ないということだろう。日本語学習者は、今回のようなタスクの場合、自分の意志を婉曲的に述べることはあまり意識していない可能性がうかがえる。しかし、パターン①「可能形／可能形+そうだ」は、日本語学習者同士でも差が見られた。日本語母語話者の16例(53%)使用しているのに対し、中国語母語話者やドイツ語母語話者の場合はともに10例(33%)となっている⁶。さらに、韓国語母語話者の場合は5例(17%)と少なく、日本語母語話者の三分の一、ほかの日本語学習者の二分の一の使用にとどまっていた。以下、例(13)～(15)に日本語学習者の①「可能形／可能形+そうです」の例を示しておく。

(13) ジュース2本なら持ってこられます。(韓_09_①)

(14) バナナ5本やイチゴ1パックやサラダ2人分などが持ってこられそうです。
(中_16_①)

(15) 私はジュース2本持っていけると思います！(独_09_①)

一方、日本語学習者に共通してみられる特徴として、②「V(よ)うと思う」の使用が全く見られなかったことが挙げられる。②「V(よ)うと思う」の場合、初級の段階で導入される文法であり、予定を言う表現として教えられている。初級段階で教えられている文法であるにも関わらず、今回の調査では日本語学習者の場合使用していたのは90名中0名であった。今回の調査対象である日本語学習者の日本語レベルは中上級であり、すでに「V(よ)うと思う」は学習済みだと考えられる。それにも関わらず、使用例が見られ

本調査での言い切り表現に当たる。

⁶ 「可能形／可能形+そうです」の使用例は、日本語母語話者に6例、韓国語母語話者に1例、中国語母語話者に1例が見られ、ドイツ語母語話者には見られなかった。「持っていけそうです」は「持っていけます」に比べより婉曲的に意志を伝える表現であると考えられることから、可能形という婉曲表現の中でも日本語母語話者と日本語学習者の使用傾向には違いが見られた。しかし、比較できる用例が少ないことから今後さらなる検証が必要であると考えられる。

ないということは、婉曲的に伝えたいと思ったかもしれないが、今回のような返信メールで婉曲的に自分の意志を伝える表現として「V（よ） うと思う」が選択肢になかった可能性がある。そこで、今回の調査データと別のデータからも「V（よ） うと思う」の使用状況を調べることにした。

ここでは、KY コーパス⁷を用い、「V（よ） うと思う」の使用傾向を探った。KY コーパスから「うと思」を検索語として抽出した。日本語学習者の使用例を調べた。その結果を表2に示す。全体で24例の、「V（よ） うと思う」が見られた。表2からわかるように、中級以降から例（16）にあるような「V（よ） うと思う」の使用が見られる。これは「将来何かをする」という予定を表す意志表現として用いられている。つまり、中級レベル以上の学習者であれば「V（よ） うと思う」の知識があり使えているようである。しかし、本研究の調査のようなタスクの状況では、中上級のレベルの学習者であっても「V（よ） うと思う」を選択しなかった。このことから、本研究のタスクにおいては、日本語母語話者が読み手に配慮する表現を用いている箇所では、日本語学習者の表現の選択肢には「V（よ） うと思う」と言う表現がなかったと言える。

表2 KY コーパスにおける「V（よ） うと思う」の出現数⁸

	初級	中級	上級	超級	合計
中国語	0	3	0	1	4
英語	0	3	4	2	9
韓国語	1	1	6	3	11
	1	7	10	6	24

(16) (韓国人の労働組合、労働運動の考え方について) …ちょっとむずかしい問題なんですけど、〈はい〉 やっぱり、そういう問題に取りくまなきやあ、問題を解決することはできない〈ん〉 んですね、だから、自分たちが、なんとかやろうと思って、あのう、やるんですから、そういうことになった、なっちゃうんですけど、やっぱり団体とか、あのう、そういう大勢の人が集まると、… (韓国語母語話者上級話者の発話：KAH02)

⁷ KY コーパスとは、90人分のOPI (Oral Proficiency Interview) データを文字化したものである。インタビューイの内訳は中国語、英語、韓国語母語話者がそれぞれ30人ずつであり、OPIの判定結果により、初級5人、中級10人、上級10人、超級5人ずつのデータが収録されている。

⁸ 日本語母語話者の使用も17例見られていたが、すべてOPI テスターが質問をする際に使われていた。

次に、日本語学習者のうち、他の言語の学習者とは異なる傾向にあった韓国語母語話者の学習者に焦点を当ててみていく。韓国語母語話者の場合、①「可能形／可能形＋そうだ」の使用は30名中5例(17%)と少なく、一方、③「言い切り」の使用は30名中17例(57%)であり、日本語母語話者、中国語母語話者、ドイツ語母語話者とは異なる傾向にあった。今回のような返信メールで、自分の意志を伝える場合、韓国語では「～を持ていきます」(「가져 가겠습니다」[gajyeo gagetseumnida])のような言い切り表現で十分であり、「～を持っていけそうです」(「가져갈 수 있을 것 같습니다」[gajyeogal su isseul geot gatseumnida])や「持っていこうと思います」(「가져 가려고 합니다」gajyeo garyeogo hamnida)のように婉曲的に述べる必要はない。特に、「持っていこうと思います」の場合は、返信内容として文脈に合わない表現になってしまう可能性がある。今回のタスクでは③「言い切り」で述べたとしても誤用になるわけではないが、韓国語母語話者の場合、明らかにほかの3つのグループとは自分の意志を表す方法が異なっており、これは前述したような韓国語の影響によるものではないかと考えられる。

しかしながら、韓国語母語話者の中には④「持って行きたいと思います」(例17)、⑤「持って行ってもよろしいでしょうか」(例18)や⑥⑤「用意できるようです」(例19)のように直接述べることを避け、自分の意志を婉曲的に述べようとする者も見られている。また、中国語母語話者、ドイツ語母語話者の場合も同様の表現が見られた。「持って行きたいと思います」(例17)は、「V(よ)うと思う」に近い表現であり、「持って行ってもよろしいでしょうか」(例18)は相手に判断を委ねた表現である。また、「用意できるようです」(例19)はやや不自然な表現であるが、「ようです」を用いることで直接表現を避けている。例(17)～例(19)のような表現を用いた日本語学習者は日本語母語話者とは異なる表現を選択しているものの、日本語らしさを意識して婉曲的な表現を使おうとしていることがうかがえる。

(17) 私は、1番目のジュース2本や2番目のバナナ5本を持って行きたいと思います。
(韓_14_④)

(18) 私はジュース2本を持っていってもよろしいでしょうか。(韓_02_⑤)

(19) 私はジュース2本とバナナ5本だけを用意できるようです。(韓国_22_⑥)

日本語学習者の場合、韓国語母語話者に限らず言い切りの表現の使用が見られているが、実際に日本語母語話者の中でも例(20)のように言い切りで述べている者も3名見られている。

(20) ジュース2本持っていきます。(日_26_③)

しかしながら、より高度な日本語力を身につけたいニーズを持っている学習者やビジネス場面の日本語を身につける必要がある学習者に対しては、自分の意志を婉曲的に伝える方法も選択肢の一つとして教える必要があるのではないかとと思われる。このような表現は、初級では指導しておらず、今までの指導内容や時期についても再考する必要があるのではないかと考えられる。

5. まとめと今後の課題

以上のように、メール文タスクの自分の意志を伝える箇所の比較から、日本語母語話者と日本語学習者は異なる傾向にあることが明らかになった。日本語母語話者は婉曲表現を好む反面、韓国語母語話者は言い切りの形を用いる傾向があり、中国語母語話者、ドイツ語母語話者とも異なっていることがわかった。しかし、「V（よ）うと思う」については日本語学習者の母語にかかわらず使用が見られず、意志を婉曲的に述べる手段として使えていないことが明らかになった。

松岡（2000）や国際交流基金（2012）には、「V（よ）うと思う」は、単なる予定を表すだけでなく確定している予定の場合でも不確定のように述べることがあるという記述がある。また、本研究の調査では、日本語母語話者が「V（よ）うと思う」を直接的な表現を避け、読み手に配慮する際に用いていた。このことから、「V（よ）うと思う」には、自分の意志を婉曲的に述べる機能があると考えられる。したがって、今後、「V（よ）うと思う」の指導内容や提示時期について考慮する必要がある。

そこで、日本語教育では「V（よ）うと思う」を実際どのように扱ったらよいかについて考えてみたい。

まず、初級では意向形の活用の負担を考え、個人の予定を表す場面で触れる程度でよいと思われるが、中級なら、自分の意志を伝える際に相手を意識させる練習を行うとよいのではないだろうか。例えば、書き言葉であれば予定を問われたメールに対し返信する際に、読み手との関係や立場を意識して婉曲表現を用いるように留意させるとよいと思われる。

今回は返信メール文タスクを扱って調査を行ったが、今後さまざまな場面を対象として日本語母語話者と日本語学習者の婉曲表現の違いについてみていきたい。

付記

本研究は第 97 回韓国日本学会国際学術大会（於漢陽大学）における口頭発表および第 51 回日本語教育方法研究会におけるポスター発表（於国士舘大学）の内容を修正加筆し、論文形式に書き改めたものである。

参考文献

国際交流基金 (2012) 日本語教育通信 文法を楽しく「つもり (1)」(2018年7月30日)
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/grammar/backnumber.html>
スリーエーネットワーク編 (2001) 『みんなの日本語初級Ⅱ 教え方の手引き』 pp.63-70 スリーエーネットワーク.
高梨信乃 (2017) 「意志表現をめぐって」 江田すみれ・堀恵子 (編) 『習ったはずなのに使えない文法』 pp.45-64 くろしお出版.
友松悦子・宮本淳・和栗雅子 (2007) 『どんな時どう使う日本語表現文型辞典』 p.398 アルク.
坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2012) 『初級日本語げんき教師用指導書』 pp. 86-87 ジャパンタイムズ.
松岡弘監修 (2000) 『初球を教える人のための日本語文法ハンドブック』 pp.136-137 スリーエーネットワーク.

日本語教科書

スリーエーネットワーク編 (1998) 『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』 スリーエーネットワーク.
坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2011) 『初級日本語げんきⅡ』 ジャパンタイムズ.